

## 執筆者紹介（掲載順）

## 竹野 弘之（たけの ひろゆき）

1957年日本郵船(株)入社。ロンドン駐在、香港法人社長、大阪支店長などを経て取締役、クリスタル・クルーズ社CEO兼会長（ロサンゼルスに10年駐在）、日本郵船歴史博物館館長などを歴任し、現在同博物館顧問。主な研究テーマは、欧米有力船主の経営史、客船・クルーズ史など。船や海運に関する洋書のコレクターでありその蔵書の本数は2,500冊にも及ぶ。「欧米名門定期船主の興亡」、「定期客船からクルーズ船へー北米におけるクルーズ産業の発展ー」、「悲劇の客船の系譜」などを海運雑誌に連載したり、タイタニック号や世界の客船などに関する各方面の講演会で活躍中。

## 稲垣 哲（いながき さとし）

京都大学経済学部卒。朝日新聞、日本海事新聞を経て、1968年6月、(株)ターミナルレポート社を設立。港湾物流コンサルタントとして、主として、行政からの各種物流調査を永年にわたって手がけ、日本海運経済学会、日本港湾経済学会、港湾管理者、団体等で、コンテナリゼーション、港湾物流に関する講演、研究発表を行っている。主な論文として「アジア物流の構造変化と港間競争」、主な研究報告として「神戸港の震災がもたらした日本及びアジア港湾への影響」、「中国経済の発展がもたらした定期船経営の変貌」がある。

## 浅井 俊一（あさい しゅんいち）

(株)日通総合研究所経済研究部物流・交通政策グループ研究主査。1993年慶応義塾大学法学部大学院民事法学科修士課程を修了し、日通総合研究所入社。国際海上／航空輸送など、国際物流の制度や仕組み、実態に関する調査につき、官公庁やその関連団体からの受託実績が多い。近年取り組んでいる課題としては、国内トラック運送事業や3PL（サードパーティ・ロジスティクス）、国際航空貨物輸送、トン数標準税制などがある。共著書として、「3PLビジネスとロジスティクス戦略」、「アジアの国際分業とロジスティクス」などがある他、論文や講演の実績も豊富である。

## 赤塚 宏一（あかつか こういち）

神戸商船大学（現神戸大学海事科学部）卒業。1962年三井船舶株式会社（現(株)商船三井）三等航海士。以後、航海士、船長を勤めるとともに陸上勤務員として本社海務部、ニューヨーク支店、コンテナターミナルなどに勤務。更に(社)日本船主協会欧州地区事務局長（在ロンドン）、同協会常務理事、(財)海事産業研究所客員研究員などを歴任し、2004年神戸大学監事に就任。ロンドン在任中に国際海事機関（IMO）STCW条約の有識者を務め、中国、フィリッピン、インドネシアの船員教育訓練システムを審査するなど船員問題に関心深く、船員教育問題や欧州事情などの寄稿が多数ある。

### 井上 欣三 (いのうえ きんぞう)

神戸大学大学院海事科学研究科教授。神戸商船大学副学長、神戸大学大学院海事科学専攻長、神戸大学海事科学部学部長を歴任。この間(社)日本航海学会会長。国内外の学会にて論文多数発表。主に、海上交通工学、港湾計画、操船、に関する分野において安全評価、安全管理に関する技術開発を中心に多くの業績を残している。特に、操船・海上交通の安全性アセスメントモデル構築の業績は顕著。日本航海学会優秀論文賞受賞6回、TransNav2007国際会議においてベストペーパー賞を受賞。現在は「災害時医療支援船プロジェクト」を日本透析医療界と連携して実施し、台湾・トルコ等との国際連携の取組を進めつつある。国際的にはIAMU（国際海事大学連合）の設立に貢献し、活動のコンセプトを提案した。

### 三浦 良雄 (みうら よしお)

川崎汽船初代北米航路コンテナ船乗船。1972年中国初のコンテナ一貫輸送現地指導のため初訪中。同年、香港駐在コンテナターミナル設営。1974年以降上海、大連コンテナ航路開設。理事中国室長、上海フェリー(株)初代社長、(株)ダイトーコーポレーション顧問を経て2002年退職。200回を越す訪中暦を活かし「中国港湾物流研究会」を興し、「洋山港開港で長江水運改造なるか」、「中国3大発展地域の港湾戦略」、「動き出した上海洋山港」、「中国のコンテナターミナル建設」などの論文を発表するとともに、伏木富山港、博多港各振興協会による中国港湾物流セミナー、日中経済協会中国講座などで講演。日中経済協会交流委員。

### 苦瀬 博仁 (くせ ひろひと)

東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科長、教授（物流システム研究室）。1981年、早稲田大学大学院理工学研究科博士課程（建設工学専攻）修了。工学博士。日本国土開発(株)技術研究所研究員を経て、1986年、東京商船大学商船学部助教授に就任。1994年より教授。専門分野は、ロジスティクス、物流、流通システム、交通計画、都市交通計画、物流施設計画、物流の歴史的な分析など。「都市の物流マネジメント」などの著書の他、学会誌や業界誌などを通じ多くの論文を発表し、物流や都市計画関連の各方面で活躍している。2007年より山縣記念財団評議員。

ホームページ：<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

### 大井田 孝 (おおいだ たかし)

1961年 神戸市立六甲工業高等学校卒

2000年 「戦没した船と海員の資料館」研究員

「戦没した船と海員の資料館」は2000年8月15日に港町神戸に開館しました。平日のみの開館ですが、戦没した商船に限っての常設展示は日本では当館のみです。遺族の方が戦没した船について知りたいと言ってみえます。未だに戦争は終わっていないことを痛感しています。」(大井田氏のコメントから)

「戦没した船と海員の資料館」ホームページ：<http://www.jsu.or.jp/siryu/>

下條 哲司（しもじょう てつじ）

京都大学・佐波宣平教授の下で学び、(財)海事文化研究所（現在の山縣記念財団）、新日本汽船で調査業務・営業経験等を経て大学教員に転進。神戸商船大学商船学部助教授、神戸大学経済経営研究所教授、甲南大学理学部経営理学科教授、大阪産業大学経済学部教授等を歴任。「海運経済論」、「海運経営論」、「配船論」など海運関連の他、コンピュータへの造詣も深く、「情報科学」などの講座を担当した。主著として、「海上運賃と海運利益」、「海上運賃の経済分析」、「配船の経営科学」、「社会科学系のためのコンピュータ科学入門」等。元当財団研究員、監事。現在、(有)トランプデータサービス社学術顧問。ホームページURL：<http://www.eonet.ne.jp/~shimojo/index.htm>

（敬称略）